「新年にあたり“命の重さ”について」

新年あけましておめでとうございます。皆様、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2018年も社会情勢、国民生活など様々な面において変化が大きい一年となりそうです。今年には「働き方改革」を推し進めていく第一歩を踏み出す一年となります。そこで、大切にしていかなければならないのは、個々の特性・能力を活かしていく労務管理であり、一人ひとりの社員が心身ともに健康で安心して働ける環境づくりです。一人ひとりの社員の「命の重さ」を意識した労務管理のあり方が問われているといえるのではないのでしょうか。

昨年、多くの猫を惨殺した事件の裁判が話題になりました。

このニュースは大きな衝撃をもって、悲しい事件として多くの人々の心に大きな爪痕を残しました。なぜこの犯人は一生懸命生きようとしている動物の命を奪おうと思ったのでしょうか。殺されても物と同じ扱いになってしまう、動物たちの命の重さが軽視されている現状に大きな憤りを感じます。

このことは現在、政府が推し進める「働き方改革」実行計画における働く人の視点に立った働き方改革の意義にも共通するものではないかと思えます。女性・若者の人材育成、病気の治療と仕事の両立、育児・介護と仕事の両立、障害者の就労など弱い立場、制約のある働き方の視点に向けた改革は、現状の課題解決へのアプローチともいえるでしょう。仕事上のストレスが弱い立場の者や動物に向けられ、大切な命が粗末に扱われことが許される社会であれば、国も企業も健全に成長発展することはありません。育児・介護と仕事を両立して働く人々、癌など長期疾病を抱え、治療をしながら懸命に仕事を続けているもの、大きな障害を持ちながら持てる能力を活かし仕事を続けることは、命あるかぎり社会の一員として存在したいという思いの実践であり、それを受け入れその活躍を支援できる社会でなければいけないと思えます。

我々、社労士のできることは限られていますが、人も動物も命が大切にされ、のびのびと生きられる社会の実現のために、できることを一つひとつ実践していければと考えています。大きな社会の変革のうねりの中、与えられている社会的役割を再認識し、クライアント様、社会のお役に立てる事務所として、本年も邁進していく所存でございます。どうか、よろしくお願い申し上げます。